

# CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	本田技研工業(株)熊本製作所 完成	階数	地上3階、地下1階		
建設地	熊本県菊池郡大津町大字平川1500他	構造	2種類以上		
用途地域等	工業専用	平均居住人員	0 人		
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工時期	2027年3月 予定	評価の実施日	2025年10月2日		
敷地面積	1,618,803 m <sup>2</sup>	作成者	古閑 正次		
建築面積	3,797 m <sup>2</sup>	確認日	2025年10月3日		
延床面積	6,020 m <sup>2</sup>	確認者	古閑 正次		

## 2 CASBEE評価結果

### ■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

■ BEE(環境効率) =  $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

### ■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能 (ランク表示)

☆☆☆☆☆

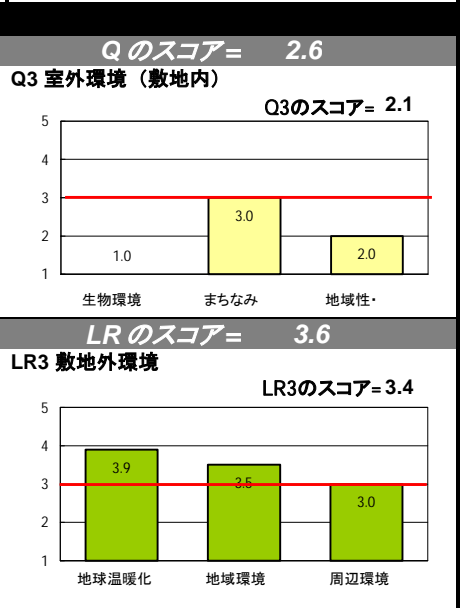
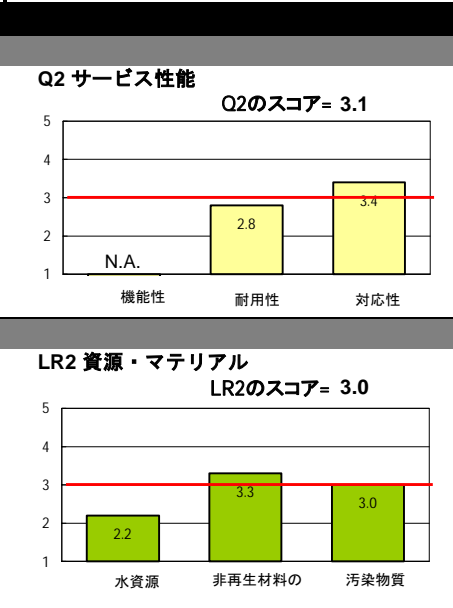
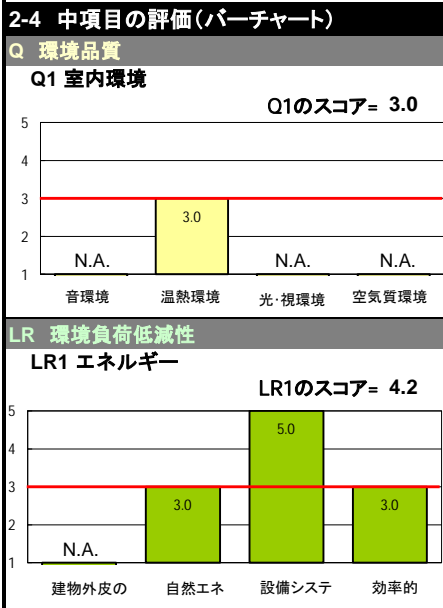
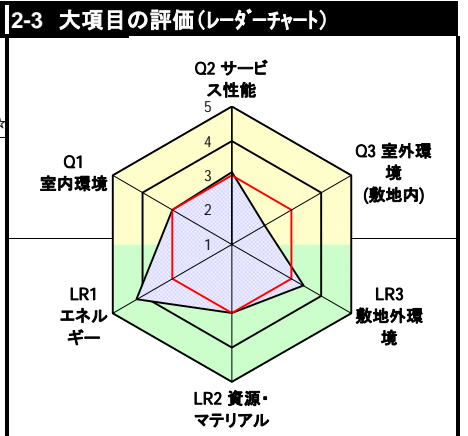
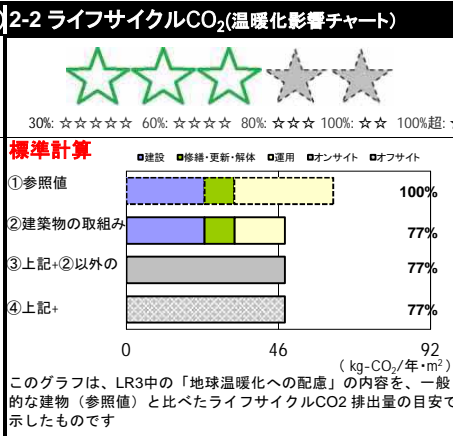
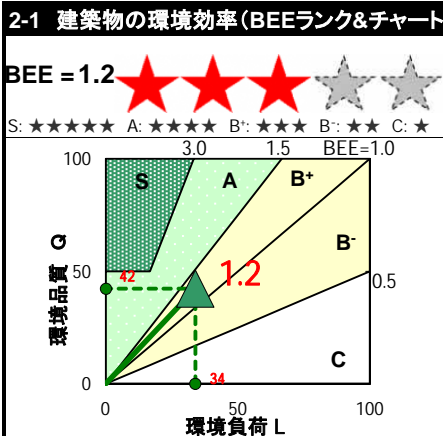
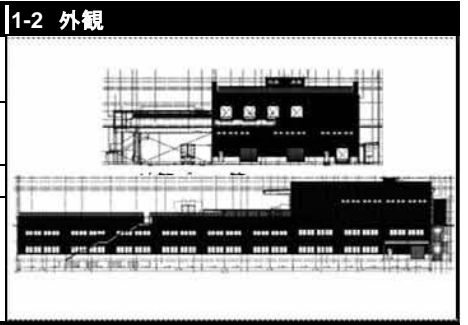
排出率

77%

## 3 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価		評価点												
		78												
<p>【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進</p> <p>【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現</p> <p>【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全</p> <p>【重点事項4】 循環型社会の実現</p>	<p>評価点</p> <p>96.8</p> <p>58.3</p> <p>60.0</p> <p>79.5</p>	<p>■ 熊本県重点評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>判定値(評価点)</th> <th>ランク表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100点以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>80点以上100点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>60点以上80点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点以上60点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点未満</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※評価点は、100点以上が推奨です。</p>	判定値(評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満	
判定値(評価点)	ランク表示													
100点以上														
80点以上100点未満														
60点以上80点未満														
40点以上60点未満														
40点未満														

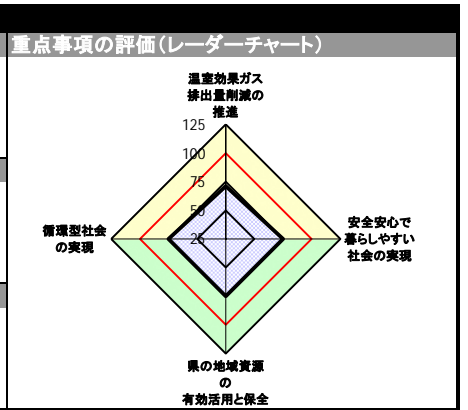
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	本田技研工業(株)熊本製作所 完成	階数	地上3階、地下1階
建設地	熊本県菊池郡大津町大字平川1500地	構造	2種類以上
用途地域等	工業専用	平均居住人員	0 人
省エネ・地域区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年3月 予定	評価の実施日	2025年10月2日
敷地面積	1,618,803 m <sup>2</sup>	作成者	古閑 正次
建築面積	3,797 m <sup>2</sup>	確認日	2025年10月3日
延床面積	6,020 m <sup>2</sup>	確認者	古閑 正次



### 3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 **評価点 = 78**

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 <b>96.8</b>	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 <b>58.3</b>
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 <b>60.0</b>	重点事項4: 循環型社会の実現 <b>79.5</b>



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		<b>Q 建築物の環境品質</b>							<b>2.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.30</b>				<b>3.0</b>		
<b>1 音環境</b>		-	-	-	-		-		
1.1 室内騒音レベル		-	-	-	-		-		
1.2 遮音		-	-	-	-		-		
1 開口部遮音性能		-	-	-	-		-		
2 界壁遮音性能		-	-	-	-		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-		-		
1.3 吸音		-	-	-	-		-		
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.0</b>	1.00	-	-		<b>3.0</b>		
2.1 室温制御		<b>3.0</b>	1.00	-	-		-		
1 室温		-	-	-	-		-		
2 外皮性能		3.0	1.00	-	-		-		
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-		-		
2.2 湿度制御		-	-	-	-		-		
2.3 空調方式		-	-	-	-		-		
<b>3 光・視環境</b>		-	-	-	-		-		
3.1 昼光利用		-	-	-	-		-		
1 昼光率		-	-	-	-		-		
2 方位別開口		-	-	-	-		-		
3 昼光利用設備		-	-	-	-		-		
3.2 グレア対策		-	-	-	-		-		
1 昼光制御		-	-	-	-		-		
3.3 照度		-	-	-	-		-		
3.4 照明制御		-	-	-	-		-		
<b>4 空気質環境</b>		-	-	-	-		-		
4.1 発生源対策		-	-	-	-		-		
1 化学汚染物質		-	-	-	-		-		
4.2 換気		-	-	-	-		-		
1 換気量		-	-	-	-		-		
2 自然換気性能		-	-	-	-		-		
3 取り入れ外気への配慮		-	-	-	-		-		
4.3 運用管理		-	-	-	-		-		
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-		-		
2 喫煙の制御		-	-	-	-		-		
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-		<b>3.1</b>		
<b>1 機能性</b>		-	-	-	-		-		
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-		-		
1 広さ・収納性		-	-	-	-		-		
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-		-		
3 バリアフリー計画		-	-	-	-		-		
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-		-		
1 広さ感・景観		-	-	-	-		-		
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-		-		
3 内装計画		-	-	-	-		-		
1.3 維持管理		-	-	-	-		-		
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-		-		
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-		-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.8</b>	0.50	-	-		<b>2.8</b>		
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50	-	-		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-		-		
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-		-		
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.2</b>	0.30	-	-		-		
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔	昇降機:30年(CASBEE熊本(新築)マニュアル P.参-11 (補助資料)耐用年数一覧表)	5.0	0.20	-	-		-		
2.4 信頼性		<b>2.0</b>	0.20	-	-		-		
1 空調・換気設備		1.0	0.20	-	-		-		
2 給排水・衛生設備		1.0	0.20	-	-		-		
3 電気設備		3.0	0.20	-	-		-		
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-		-		
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-		-		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.4</b>	0.50	-	-	<b>3.4</b>
3.1 空間のゆとり			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	平均階高: 4.72m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率: 0.16	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	申請部分に空調機の設置無し	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	PF管の採用により構造部材だけでなく、仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	PF管の採用により仕上げ材を痛めることなく通信配線の更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		1.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>2.1</b>
1 生物環境の保全と創出		外来種を持ち込まない	<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
2 まちなみ・景観への配慮		公共空間からほとんど見えず、まちなみ・景観に配慮しようがないレベル3	<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
3 地域性・アメニティへの配慮			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		<b>1.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.6</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.2</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	
2 自然エネルギー利用			<b>3.0</b>	0.13	-	-	<b>3.0</b>
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.51	<b>5.0</b>	0.63	-	-	<b>5.0</b>
4 効率的運用			<b>3.0</b>	0.25	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
1 水資源保護			<b>2.2</b>	0.20	-	-	<b>2.2</b>
1.1 節水			<b>1.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			<b>3.3</b>	0.60	-	-	<b>3.3</b>
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		完成車置場の床に再生木モクレン t=50の採用	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		①LGS下地により躯体と仕上げ材が容易に分別可能、②PF管の採用により内装材と設備が錯綜せず解体・改修・更新の際に容易にそれぞれを取り外すことができる	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤	スプリンクラーのみの為、評価対象外	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	1.00	-	-	
3	冷媒	冷媒ガスの使用なし	-	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.4</b>
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率: 70%	<b>3.9</b>	0.33	-	-	<b>3.9</b>
2 地域環境への配慮			<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の設置無し	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	敷地内に適切な量の自転車置場・駐車スペースの確保、荷捌き用車両の駐車施設の確保、駐車場の導入路を大きく確保し周辺道路の渋滞緩和に努めた	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明なし	3.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

建物名称 本田技研工業(株)熊本製作所 完成車工場南側トラックヤード

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		78
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				96.8	0.40	38.72
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.13			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	0.0	0.00			
Q1-3.2.1	昼光制御	0.0	0.00			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	0.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.25			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.38			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.13			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.13			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				58.3	0.20	11.66
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	0.0	0.00			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.33			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.20			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.27			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.20			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				60	0.20	12.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	1.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				79.5	0.20	15.90
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和  
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

## ■ 環境関連の配慮事項

印刷:モノクロ  
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	壁長さ比率や天井高に余裕をもたせゆとりのある空間を計画した。	
Q1 室内環境	工場用途の為、評価対象外	
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PF管を採用し、構造部材だけでなく、仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができるよう配慮した。</li> <li>・動かさないものを極力無くし、設備や空間のプランニングの自由度を高めた。</li> </ul>	
Q3 室外環境 (敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空地を設け、敷地内の歩行者空間等へ風を導き、暑熱環境緩和に努めた。</li> </ul>	
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LED照明を採用し省エネルギーに努めた。</li> </ul>	
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LGS下地により躯体と仕上げ材が容易に分別可能とした。</li> <li>・PF管や二重天井により建物の更新性に配慮した。</li> </ul>	
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフサイクルCO2排出率70%と、CO2の排出を極力抑えた設計とした。</li> </ul>	
その他	特になし	